

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

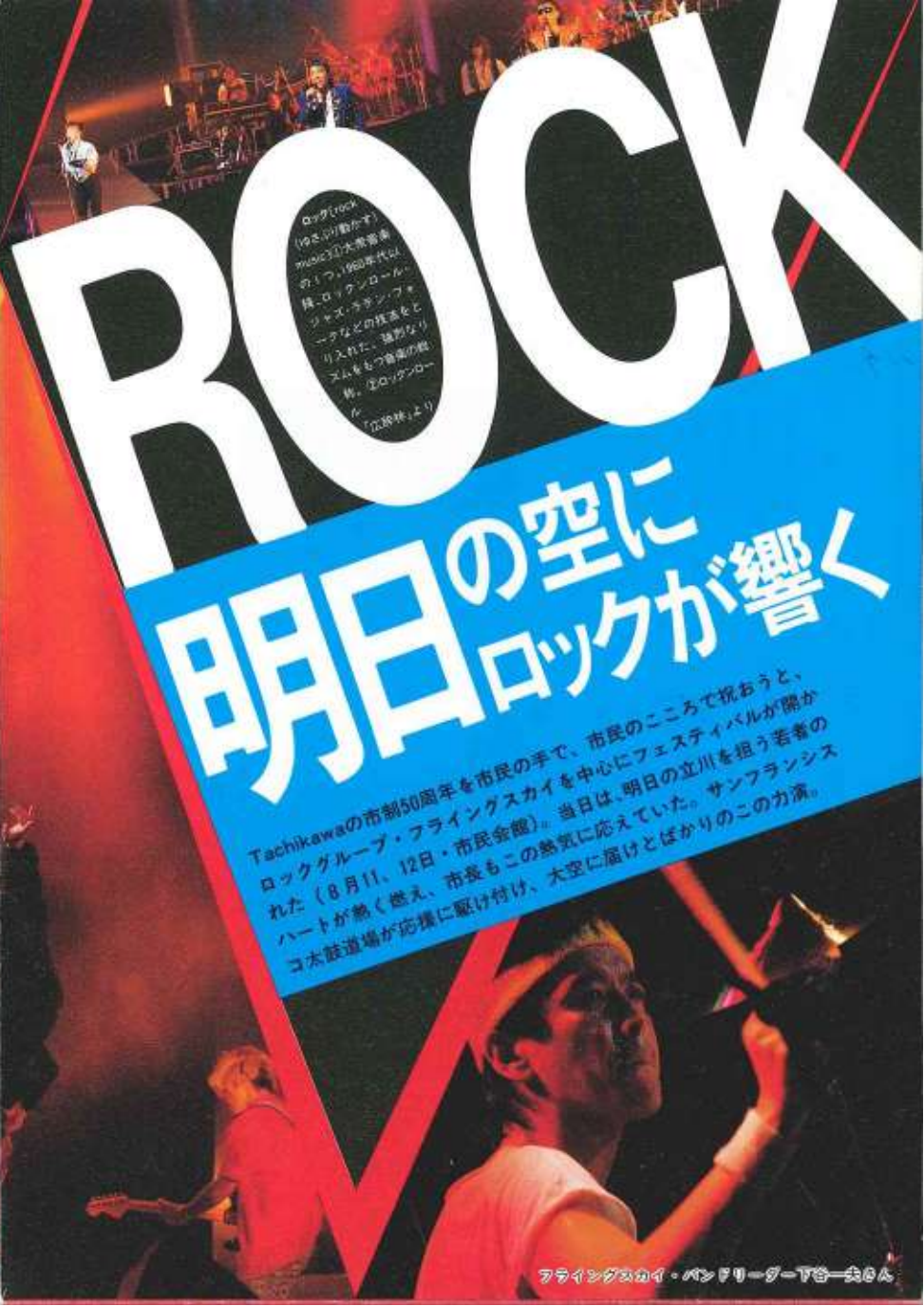
# えくてびあん

〈EKUTEBIAN VOL.7 OCTOBER 1990-EKUTEBIAN〉

10



まい あーとプラスチック細工  
「ヨダワリ」 by 橋本茂夫



# ROCK

Rock (rock)  
(ゆさゆさ) 音楽  
music) 大衆音楽  
の1つ、1950年代以  
降、ロックンロー  
ル、ロックンロー  
ル、ロックンロー  
ルなどの派生をこ  
り入れた、強弱なり  
ズムをもつ音楽の総  
称。ロックンロー  
ル「広義」より

## 明日の空に ロックが響く

Tachikawaの市制50周年を市民の手で、市民のこころで祝おうと、  
ロックグループ・フライングスカイを中心にフェスティバルが開か  
れた(8月11、12日・市民会館)。当日は、明日の立川を担う若者の  
ハートが熱く燃え、市長もこの熱気に応じていた。サンフランシスコ  
コ本誌道場が応援に駆け付け、大空に届けとばかりのこの力演。



### おせっかいな手紙

●中込重春/武蔵野書房刊  
現代日本文学の重鎮といってもよいであろう、井伏鱒二のエッセーに「人と人影」がある。その冒頭の一篇に「中込君の雀」が収められている。  
この「中込君」こそ本書の著者である重春氏その人。立川は錦町で鯛焼き屋をしていた、かなりの「名物男」であった。「あつた」と記さなければならぬのは、惜しくも2年まえに他界された。

## 立川の灯火親しむ本、二冊

読書の秋とやらで、猛暑で読み進むのがおぼつかない、この時季に、立川の人々の暮らしの「名」といふものが、この一冊でお届けしたい。

### 町の片隅から

●中野藤吾/けやき出版刊  
この夏、本書の出版記念のパーティを親しい方々が開こうかと思っていた矢先の急逝、まさに中野先生の「遺書」といってもよいであろう。  
栄町にお住いであったが、改めて経歴をみると、これが何と「立川ずくめ」なのだ。大正9年、砂川尋常高等小学校（現立川八小）大正14年、東京府立第二中学校（現立川高校）をそれぞれ卒業。現在の「一橋大学を出られ、学問の道に進まれるが、戦後には立川専

門学校校長、立川短大校長を務められた。この生粋の立川人が西武新聞社発行「0425」紙上に連載したエッセーをまとめた本書。著者の謙遜によって「言わずもがなの記」という副題を付したるが、この街を愛してやまなかった先生の息吹が行間から流れてくるようで、ときに叱咤の激をとばされているのではないかと、読者は思う。「多摩が東京並みになっ

今月の表紙を彩ったのは、ウイテルにある「マルジュ」のシエフ橋本茂夫さん。愛敬のある人形達がいまにも語りかけるようにウイランドに並ぶ。よく作品は作者に似るといいますが、お会いしてなるほど納得。さて、素材は最近手軽に加工出来ることから多くの方に使われてきている合成プラスチック。色の組み合わせ、細部へのリアルな工夫はとても料理人が作ったとは思えない。しかし、橋本さん曰く「これも料理の一部なんです。色や形はとも大切なもの。よく美術品や絵を見て、バランスや、色味などの勉強をしますし……」。フランス料理の世界に入ってから18年、まだまだ勉強しなきゃという創造人・橋本茂夫氏。

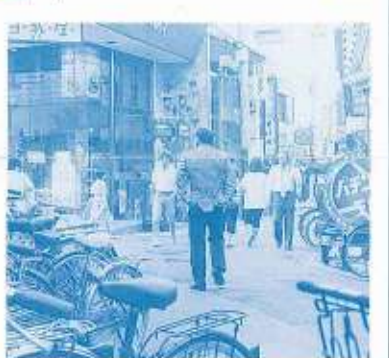
**ことわざ**  
漢字一字挿入せよ

10月10日水  
「市民体育館  
無料開放」

10月26日金  
~28日日  
「第4回  
市民映画祭」

だが、人がいて人の肌の分だけ温かがある。ときに、熱くなり、肩にあたって、あたらぬの、とケンカをはじめる人もいるが。

立川・ジャパノス  
日本初！スポット式エアコン付  
公衆電話ボックス登場  
7月13日(金)、錦町4丁目N.T.T.東京西支社前に、エアコン付きの電話ボックスが開設された。類似のものとして、渋谷駅や銀座松屋の前などに設置されている。まだ試験段階とあって少数な。ただ、中であって、日本ではここに立川にだけという、スポット式エアコン



## ?立川クイズ

●御本尊、真如堂  
宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。  
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。  
■お申し込みは「えてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

「伝統芸能をみる会」が、9月9日市民会館小ホールで行われた。立川市地域文化振興財団の主催で、おはやしや民謡民謡、獅子舞の各保存会、多摩摩車人形を育てる会の四団体に参加、満席の人々に立川の伝統芸能を披露した。初の合同公演、後継者の育成が急がれる今、市民へのアピールのためにも続けてほしい試みである。

たぶん「時代の音」というのがあるのであろう立川市の市制50周年をロクとして祝おうと試みた若者の感性に、ある年代の方はついていけないのかもしれないが、そのロクでさえも、やがて「時代おくれ」になる時が、とうとう。もし、こなければ、つまり時代を越えて人の心こころに響くものがあれば、それを人はクラシックと呼ぶにちがいない。●本誌でも紹介したことのあるタンゴ歌手・島サチコさんが立川市民会館や日本橋の三越劇場でリサイタルを開き、熱い感動を場内に満たしていた。思い切った云ってしまえば、いま、タンゴは「時代の音」からは遠く離れた、過去の音だ。にもかかわらず聴く者の心こころをゆさぶるのは歌うひとが、時代を越えた「何か」をさぐり当てたからにちがいない。●エコーハンドベル・リングァーズが小野田隆庸さんの指揮で「児玉勝己道徳コンサート」を開催した。あの、児玉さんの霊気がのりうつつたような、素晴らしい澄んだベルの音に、聴くひとは「時代」などというスケールを越えて酔っていた。児玉勝己ファンは、「さくらのメロディー」によるファンファーレや「熊蜂の飛行」を幾度耳にしたことであろうか。逝って半年、いままさながら児玉さんの英知と独創、それに何よりも温かいひと柄が惚けて目頭をあつくした。●特別、柿喰ひながら「えてびあん」。

真如苑だより  
日時 10月15日(日)  
午後2時~4時

秋になりました。あの暑いさなかに、今年も「灯火親しむ祭」など訪れるのだろうか。と危ぶんだものですが、四季の恵みは著実にこの土地にも降りてくれました。身もこころも涼しい、真如苑の境内をひと巡りしてみませんか。

月刊「えてびあん」第75号  
平成二年十月一日発行  
発行所 えてびあん編集工房  
東京都立川市富士見町2-20-15  
バックビューハイブ501-1100  
電話 0425-250-082  
FAX 0425-250-1297  
編集人 立井啓介  
発行人 沖野真男  
印刷所 株野大蔵社

編集 小川知子 神山清子 櫻川理子 山田暎子  
中野藤吾 中野正弘 原田史子  
写真 天野真男 橋本一明 古田義典  
スタジオ 6-9 桂川一己 本寺孝

東風  
「時代」の音といふのがあるのであろう立川市の市制50周年をロクとして祝おうと試みた若者の感性に、ある年代の方はついていけないのかもしれないが、そのロクでさえも、やがて「時代おくれ」になる時が、とうとう。もし、こなければ、つまり時代を越えて人の心こころに響くものがあれば、それを人はクラシックと呼ぶにちがいない。●本誌でも紹介したことのあるタンゴ歌手・島サチコさんが立川市民会館や日本橋の三越劇場でリサイタルを開き、熱い感動を場内に満たしていた。思い切った云ってしまえば、いま、タンゴは「時代の音」からは遠く離れた、過去の音だ。にもかかわらず聴く者の心こころをゆさぶるのは歌うひとが、時代を越えた「何か」をさぐり当てたからにちがいない。●エコーハンドベル・リングァーズが小野田隆庸さんの指揮で「児玉勝己道徳コンサート」を開催した。あの、児玉さんの霊気がのりうつつたような、素晴らしい澄んだベルの音に、聴くひとは「時代」などというスケールを越えて酔っていた。児玉勝己ファンは、「さくらのメロディー」によるファンファーレや「熊蜂の飛行」を幾度耳にしたことであろうか。逝って半年、いままさながら児玉さんの英知と独創、それに何よりも温かいひと柄が惚けて目頭をあつくした。●特別、柿喰ひながら「えてびあん」。

# 羽村の玉川兄弟



## 立川発 カルチャートレイン

半日ほどの「小さな旅」へ  
出てみませんか。そこには  
思いがけなく自然が息  
づいていたり、懐かしい  
「この人」に会えたり。

4



多くの文明・文化は「カワ」によって大きくその姿を変えていった。この「上水」もまたその一である。四谷大木戸まで約十一里という長い正流は、奥に伝わる。そして水を飲めば、その水がそれぞれの体をかえ、生活文化を築き上げていく。この水が今も伝わる。



羽村の堰を  
望む玉川兄弟の  
像。お社は今も葉っぱ